

(特別)音楽鑑賞会音楽鑑賞記 (8月28日紀尾井ホール)

国際アマチュアピアノコンクール ～参加者からみたコンクール～

今年の「国際アマチュアピアノコンクール・本選」は8月28日(日)に紀尾井ホールで行われた。私は今回 このアイアン・クラブ会報にレポートさせていただける ことになり、また幸運にもファイナリストとして参加できることとなった。日本製鉄(株)で働きながら音楽を愛好する週末だけのピアニスト。この舞台に立てること自体が夢を見ているようだ。楽屋に入る前にもう一度ホールを目で確認してしまう。もうお客さんもちらほら到着してきている。コロナ下で本選迄種々の調整をされてきたコンクール事務局の方々の御苦勞に感謝をしつつ楽屋に足を進める。

このコンクールはアイアン・クラブとも関係の深い日 唄文化協会が2006年から開催し、今年で17回目となる。参加者(一次予選時点)はA部門(バッハの課題曲有、暗譜必須)28名、B部門(自由曲のみ)54名、シニア部門(55歳以上)27名、計109名。この日の本選は10:30開始から16:50の表彰式修了まで6時間強。B部門11名、A部門10名のファイナリストの順番でプログラムが組まれた。その後、審査員の最終審査中に、シニア部門最優秀賞、優秀賞の3名と、昨年のA部門優秀賞者による記念演奏が披露され、表彰式で締め括られた。未だコロナ対策に気を遣いつつも、アイアン・クラブの会員7名の方々含め多くの来客あり、クラシック音楽を愛好する層の広がりを実感させられた。

コンテストは自分の出番の1時間前に楽屋口で受付を済まし、ピアノ室で練習時間がある。それ以外は自由だ。大体の人は二階の指定席で演奏を聴く。中には控室に籠って集中して楽譜を見ながらイメージトレーニングしている人も、運動をして身体をリラックスさせる人も。

私自身はB部門にて参加した。(曲目はマスネ「黒い蝶」、ドビュッシー「夜想曲」)。受付後、練習迄に少し時間があったので冒頭の演奏を聴くことができた。自分の演奏前に他のコンテストの演奏を聴く目的は、このホールでこのピアノがどのように響くのか自分の耳で確認することにある。数ある楽器の中で、ピアノは大きい故に、自分が普段練習している楽器をホールに持ち込めない。リハーサルがないコンクールでは、弾いてみる迄どう鍵盤が反応し、どうホールで

響くか分からないという怖さがある。皆同じ条件なので公平ではあるが、怖いことに変わりがない。今回冒頭の演奏を聴き「とても良く響く」と感じた。自分の演奏は未だペダリングに課題意識があったので軽めに踏み込む調整をしたいもの。本番では緊張してそこまで余裕がないかもしれないが……。

響きの確認をし、練習時間を終えともう本番直前だ。コロナ対策で舞台袖には順番の一人前になってから入るので、殆ど他の人と話すことがない。案内係、音響機器を操作する専門家、必要最小限の人達が無言で詰めている。緊張で息苦しくなって深呼吸をして心を鎮める。前の順番の方の演奏が聴こえる。競争している立場だが、美しい音にいつの間にか一愛好家として惹き込まれている。そして音が止み、聴衆からの拍手。コンテストが舞台から戻りお互い目礼してすれ違う。案内係が一度締めた扉をひと呼吸後に開ける。「行ってらっしゃい」という声に送り出されて震える足で舞台上に踏み出す。ピアノの前で聴衆に一礼。椅子の高さを調整、ペダルの踏み込みを確認する。舞台の照明が暗くなり、ピアノにスポットライトが当たる。ピアノと自分の指以外は見えなくなる。どくどくと心臓の音だけが聴こえる。深呼吸をして鍵盤に指をおろして。さあ始まりだ。

このコンクールの魅力は、審査員の先生、様々な職業のコンテスト、まるで音楽会のように暖かい声援を送る聴衆と多岐にわたる。だがなんといっても予選での杉並公会堂のベーゼンドルファー、本選は紀尾井ホールのスタインウェイ、とピアノ弾きならば夢にみる名ホール・名器で弾く機会が与えられることだ。この日のスタインウェイも華やかで透明感のある音。そしてそれを豊かに響かせてくれる紀尾井ホール。弾き終わってもなお最後の音の残響が去るまで、ピアノとホールの魅力に心奪われ、暫し動くことができなかった。

自分の番が終われば後は心置きなく演奏を楽しめる。本選は全員が自由選曲なのだが、コンクールでここまで曲目が多様なのも珍しい。普通は限られた時間で技量をアピールしなければならないのでプロ/アマ問わず大曲や超絶技巧に集中する。当本選ではコンテスト 21 名で 40 曲の演奏だが、重複したのは 2 曲のみ。ショパン、ラヴェル、ラフマニノフといった作曲家から、ウクライナ出身でジャズのテイストを織り交ぜたカプースチンや、アルゼンチンの民族色豊かなヒナステラまで、コンクールというよりも音楽会のように多彩な曲目が並んだ。

記念演奏が終わると、表彰式で結果が発表される。今年の優勝者は素晴らしい演奏をされた



・ A 部門第 1 位 浅野稔子さん(シューマン 幻想曲ハ 短調)

Op.17 第 1 楽章)



・ B 部門第 1 位 桐明しおりさん(ラヴェル 鏡「1. 蛾」「2. 悲しい鳥たち」)であった。表彰式の最後は、審査委員長の北川暁子氏(東京藝術大学名誉教授)から講評をいただいた。「アマチュアとプロの違いは何なのか。アマチュアは好きな曲だけを弾くことができる。それはそれとして幸せなことなのだが、何故好きなのか、作曲家は何を思って、感じて作曲したのか、その曲に向き合ってみて欲しい。そうするともっと音楽を深めていくことができると思います。」全ての音楽愛好家に向けた温かなエールで締め括られた。

(賛助会員会社・日本製鉄 佐藤麻里/B 部門第 2 位・記)
筆者：集合写真の前列 1 列目(座っている人)の右から二番目(男性の左隣、白いドレス女性の右隣)

